

やってみて、どうだった？

「こども縁日」が終わった後、スタッフに感想を聞いてみました。

⑦…子どもスタッフの感想 ⑥…大人の感想

⑦楽しかった！マシュマロになるべく
芯ができないように工夫して焼きました。
「おいしい」と言ってもらって嬉しかった。

⑦初めて会った人でも
恥ずかしがらずに接客
できるようになった。

⑦小さい子や外国の人にも
手厚くサポートしようと工夫した。
だいたい計画通りにできたと思う。

⑦自分たちで考えながら
行動して、普段はできな
い経験ができた。

⑦射的は銃が2つ
あったから、1つに
1人ずつ付いて、列が
早く進むようにした。

⑦（スタッフの）大人が
優しくて、友達みたいに話
してくれて一緒にやってい
て楽しかった。サポートも
いろいろしてくれた。

⑦千本引きの景品が
うまく渡せるように、
まとめたりして
工夫しました。

⑦いろんな人との関わりが楽しい。
何をするとか決まっていなくて、
自分で考えたり、どうすればいいのか
工夫するのが面白かった。いろいろ積極的に
やるようになった。

- ⑥親と子だけだとつい口を出してしまうけれど、ここではほかの皆さんも見守ってくれるので、子どもの自主性を大事にできます。
- ⑥子どもが来るか不安でしたが、予想以上、予想していなかった形で盛り上がりました。
- ⑥「やりたいことをやっていい」というスタンスは一貫していて、いつも何らかの「発見」があるんですよ。
- ⑥自分がやりたいことをやるだけでなく、お客さんを待たせないように考えていたので、成長を感じました。
- ⑥子どもたちは、よく長時間飽きずにあの人数をさばきました。自分がやりたいと思っていることは楽しいんだと。それが全てですね。子どもたち、キラキラしてました。
- ⑥子どもが自分たちでいろいろ考えて動いて、全部売り切ったとはすごい。
- ⑥仲間同士で相談し合っていて、イベントとしての成功とは別に、「やりたいこと」を考えて行動したところは100点満点以上です！

子どもスタッフは、口を揃えて「お客さんに喜んでもらえて嬉しかった」「楽しかった！」と笑顔で答えてくれました。

自分たちが考えて実現した「こども縁日」の大成功で、彼らの心にはどんな思いが残ったでしょうか。

はむらプレーパークの会

堰下レクリエーション広場、
羽加美緑地公園などで不定期に
活動しています。運営・応援会員随時募集中！
問合せ ☐ hamurappa@gmail.com

はむらプレーパークの会▶

市民提案型協働事業とは

市民活動団体が主体となり、魅力あるまちづくりを目指して市と協働で行う事業。市が予算の範囲で、3年間を上限に助成します。毎年、2月に提案団体を募集します。

市民提案型協働事業▲
(市公式サイト)

▼手作りの看板が立派！独楽屋



▲ボイの種類を変えて
難易度に変化をつけた
スーパーボールすくい



「こども縁日」当日 (2月23日)

堰下レクリエーション広場に6つのお店を用意。
この日は約280人のお客さんが来場し、どのお店
も大入り満員、大賑わいでした！



◀早めの時間から
千本引きを宣伝
して集客に努め
ました！



▲輪投げは、投げる人に合わせて
投げる位置を変えました



▲ココアの適量も、メン
バーで試作して決定



▼3年間いろいろなことに
挑戦してきた人。
これからもプレーパークに
関わりたい！



▲小さな子にも丁寧に
射的の遊び方を説明

今日のおみせ

スーパーボール
すくい
輪投げ
射的
ホットココア
& スモア
独楽屋
千本引き



▲賄い担当は、豚汁用の
野菜をひたすら
切りました

すればいいのかもよく考えています。

永川 「お店屋さん」の案は最初からあり
ました。当初はフリーマーケットのよ
うに品物を売って「お金を稼ごう」と
(笑)。でも話し合いながらいろいろ考
えたようで、「もし自分が遊びに来て、お金
がなくて遊べなかったら悲しい」などの
意見が出て、今回のような「縁日」企画
になりました。

関口 思い切って任せた方が、面白いも
のが出てきますね。

永川 まさに「道なき道を踏みながら」
皆でつくってきたという感じです。

関口 この3年間で、子どもの遊び場に
関する市の事業(水上公園の今後の活用
方法など)について、子どもたちが説明
を聞き、遊び場の当事者として提案でき
る機会もつくりだしたのですが、そこ
までは手が回らず残念でした。

活動を通じて目指す未来はどんな姿
ですか

永川 子どもたちがどんどん主体的に
なって、自分たちで一から企画書を作り、
予算案を立て、市民提案型協働事業に提
案できたりするようになるというです。

関口 そして市内には常設のプレーパ
ークができて、子どもたちが日々当たり前
に「やってみよう」ことに挑戦できたり、
家とも学校とも違う居場所としてのんび
り過ごせたり…。そんな未来を会の皆
と描いています。



▲射的チームの直前打合せ